

最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。

分析は、全て、先週末6月17日の日足終値時点(NY時間午後5時)での判断です。尚、内容は、私の有料情報サービス「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)から一部抜粋(毎日お届けしている中で、月曜日の朝一番の配信分のみ)です。毎日の配信をご希望の方は、ぜひ「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)をご覧ください。(動画配信を毎日行っております。無料お試し期間もあります。)

ところで、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断です。そして、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断です。

◆「マーフィーFX」YouTubeチャンネルはこちらです。

<https://www.youtube.com/channel/UCTQj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々な相場解説を無料動画で視聴出来ます。

<<<主要7通貨相場週足、日足、4時間足、1時間足分析>>>

★「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

そして、トレード戦略の解説は、YouTubeで配信している「実践トレード解説」をご参考にしてください。

■ドル円

<<週足分析>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1ラインをキープするかぎり本格上昇トレンド継続となる一方、終値が同ラインを下回る場合、週足ベースでも調整反落局面入りする。

<<日足分析>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が+2ラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、直近の高値 135.58 円をブレイクする場合、反落の「リバーサルパターン」が消滅する点には注意しておきたい。つまり、続騰しやすくなる。

<<4時間足分析>>

調整反騰局面、もしくは、レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、売りシグナルの順行パターンの売りサインが点灯中。

遅行スパンの同期性にも注目したい場面。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが相関しながら動くことを指す。この「遅行スパンの同期性」は、レンジ局面での特徴でもある。

<<1時間足分析>>

調整反落局面。

赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

■ユーロドル

<<週足>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が-2ラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

<<日足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1ラインから+2ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1ラインから-2ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2ラインの上方にて引ける、もしくは、-2ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言います)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2ラインをブレイクすること、等々。

遅行スパンの同期性にも注目。

尚、遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが関連しながら動くことを指す。

この「遅行スパンの同期性」は、レンジ局面での特徴でもある。

<<4時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

<<1時間足分析>>

下落バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、目先、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中だが、すでに、逆行パターンの売りサイン点灯時の最終ターゲットである-2ラインには到達済み。

■豪ドル/ドル

<<週足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
尚、引き続き、遅行スパンの同期性に注目。

尚、遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の
上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが相関しながら動くことを指す。
この「遅行スパンの同期性」は、レンジ局面での特徴でもある。

<<日足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1ラインから+2ラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、-1ラインから-2ラインにかけての価格帯は押し目
買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2ラインの上方にて引ける、もしくは、-2ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言います)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2ラインをブレイクすること、
等々。

尚、遅行スパンの同期性にも注目したい。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の
上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが相関しながら動くことを指す。
この「遅行スパンの同期性」は、レンジ局面での特徴でもある。

<<4時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
尚、売リシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサイン点灯中。
また、遅行スパンの同期性にも注目したい。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の
上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが相関しながら動くことを指す。
この「遅行スパンの同期性」は、レンジ局面での特徴でもある。

<<1時間足分析>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1 σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が -1 σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯中。

■ポンドドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1 σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が -1 σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサインが点灯中。

<<日足分析>>

レンジ局面。

終値が -1 σ ラインを上回ってことで、調整反騰局面、レンジ局面入りを確認。

また、目先、「リバーサルパターン」が発生したことで反転上昇しやすくなっている。

「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、

(2)終値が -2 σ ラインを上回ること、の両方を満たすこと。

尚、遅行スパンの同期性にも注目したい。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の

上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが相関しながら動くことを指す。

この「遅行スパンの同期性」は、レンジ局面での特徴でもある。

<<4時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサイン点灯中。

尚、遅行スパンの同期性にも注目したい。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の

上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが相関しながら動くことを指す。
この「遅行スパンの同期性」は、レンジ局面での特徴でもある。

<<1 時間足>>

下落バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
尚、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中だが、すでに、逆行パターンの売りサイン点灯時の最終ターゲットである-2σラインには到達済み。

■ユーロ円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、
終値が+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、下ヒゲの長いローソク足出現となっており、底堅い地合いと読む。

また、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。
猶予期間中の高値(現在はサポートライン)をキープするかどうか注視したい場面。

<<日足分析>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、
終値が+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

「リバーサルパターン」が発生して以降、上値重い地合いと読む。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、
(2)終値が+2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

<<4 時間足分析>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
尚、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯中だが、逆行パターンの買い

サイン点灯時の最終ターゲットである+2σラインに到達済み。

<<1時間足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

■豪ドル円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、下ヒゲの長いローソク足出現となっており、底堅い地合いと読む。

<<日足分析>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

「リバーサルパターン」が発生して以降、反落しやすい格好。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、(2)終値が+2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサインが点灯中。

<<4時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2ラインの上方にて引ける、もしくは、-2ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言います)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2ラインをブレイクすること、
等々。

売リシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯中だが、逆行パターンの買いサイン点灯時の最終ターゲットである+2ラインには何度も到達済み。

尚、遅行スパンの同期性にも注目したい。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが関連しながら動くことを指す。この「遅行スパンの同期性」は、レンジ局面での特徴でもある。

<<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウントートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中。

尚、遅行スパンの同期性にも注目したい。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが関連しながら動くことを指す。この「遅行スパンの同期性」は、レンジ局面での特徴でもある。

■ポンド円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が+2ラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、下ヒゲの長いローソク足となっており、底堅い地合いを示唆。

一方、「リバーサルパターン」発生以降、引き続き、上値も重い地合いと読む。

<<日足分析>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

「リバーサルパターン」が発生して以降、反落してきている点に注目。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、(2)終値が+2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中。

<<4時間足分析>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

目先、「リバーサルパターン」が発生しており、反落しやすくなっている点に注目。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、(2)終値が+2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯中だが、逆行パターンの買いサイン点灯時の最終ターゲットである+2σラインには到達済み。

<<1時間足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、買いシグナルの順行パターンの買いサインが点灯する一方で、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

★尚、スーパーボリンジャーは、价格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。また、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断となる。

以上です。

◆「マーフィーFX」YouTube チャンネル登録のご案内。

<https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々なマーフィー流相場分析、解説が動画で無料視聴出来ます。

◆マーフィー流 FX「実践トレードコーチング専用」ライン@のご案内。

以下より登録できます。

<https://www.span-model.com/line/>

◆「スパンオートトレーダー(SAT)」のご案内。

「スパンオートトレーダー(SAT)」とは、「裁量トレード」と「自動売買(EA)」の良いとこ取りをした、とても便利なトレードツールです。

「スパンオートトレーダー」の詳細、及び、お申込みページはこちらです。

<https://www.xfine.info/satrader/>

◆「スパンオートシグナル」のご案内。

スパンモデルを有効に使いこなす為のきわめて強力なツールです。

スパンオートシグナルのご紹介、および、ご購入用ページはこちらです。

<https://www.xfine.info/sauto/>

以上です。